枇杷園七部集五編

へ 5
4631
5

長壽樂　杵柏子　みのむし　きくふくへ
玉うきき　杵屋弘枝　吉住作

枇杷園七歌集五編

尾陽　東壁堂藏

昭和十六年一月十一日寄贈
尼野貴英氏

帝國圖書館藏
4631

門 へ ５
號 4631
巻 5

あきらかなり大人好まぬハ雨されど
男、なすまいと世の人ハ物ひしくして
書状ぼ花に雲しと惜むもの
彩句をうたひかしむや楽しきに
書画をしすめて夜なく集の名
面白きらば世寿長寿楽く
世寿楽を賞るも寿詞なりしとやを
らいはにて序とす

大露庵

批七紋五ノ上一

年はむかしくに年のうつりき　士朗
霧に肥る枇杷罌の杉　應汀
山雀をし白雀も帰る木原で　鹿野
をの倉なりしさうおりなり　求巳
冬月八柳の下より出るやうん　棋間
二夜をえらしたる豆の蔓まで　野
大牛の眺らにしく雲のまくひかく　汀
覚をはらむ萱寺の秋　間
禮談の妻ある苔をみく詩を読て　巳

幾夜しら玉の椿の封を切　朝野
さい佛のもゝ〳〵藪の畫う　溪汀
ゝうゆすりてくるくる俳しを　間
根ある翁ゝとのいきもせた沈
書きハ苔のるゝひるりくる　巳
すゝ風の吹なり湖の上　汀
ちつほゝゝきも語るあき身　狂
一掬ゝ生ゝ花のゝ　巳
その代川田ゝ畫の閑さ　間

○蹠影横斜
水清淺

山よ暮るき書ゝあり樹の下佛ゝ
水うたゝすゝきゝゝ夢の月　旭宇

曉雪浮動
よきゝゝ花の黄昏
惟ゝゝ夢の夢ゝ山路ゝ

○蘭省花時　左扇
錦帳下
大空よ隈ゝゝき霧の影ゝ
朝日ゝ運ふ和泉の浦波　金陵
盧山雨夜

草庵中

後ろ〳〵てて花の事　藍岱

霧の眠りの長閑なりけり

○茂静　直疑

子　栽左

住慣てかゝる紀伊の林哉

陽炎ふ山の井の水　琴洲

蕉翁　深き賞

四時　素

よしの山若ひとの弧し紀

松ハ春の花なそ有けゝ　馬門

○あゝいそうの事のとろかな

ちゝ迄ぬと聴なるかのめうし

ふるひまそ迄の翁のいそ

花ちせうるを見人家荒

仮入とうつりつゝ

杉もふ門ぬるも桜哉　月居

白川の橋を渡ハ初さくら　翠川

杉とのゝ見てたく山ちつ桜　玉胥

花まつやたゝうの草の雨　葛井

ゝふ事をハ今日えをいて桜哉　黄山

ゆきさまたゝぬもいとをぬさゝぶ　梅巣
なみ中より湧る雲あり花曇　成美
出ぬ日をたちいさく残ぬ花の月　雄渓
雪ぬ入て花はるものゝふ猶うれ　求巳
をのいへ人屋よりはくはゝ〻ぶ　万和
花もうもよ紀美を見よ月と花　古猿
いそう海〻ものやなれの雪の春　永安
山寺や花よりあをき〻仮燈　平安
朝の雨よ樹間人〻来て老よりり　巣兆
湖の水かさきたり花ゝもり　士巌
さゝ波や花よ宿うる七所　卓池

月の花よ嵐の散るさゝ〻ぶ　五道
花よ雪て雪とゝ花々山雪　沙鷗
白雲の中よも花のちり〻ぶ　岳洛
人もこゝろたゝのとちり〻ぶ　昆明
あり〻と雪をれく花のあり山　五来
こゝよ雲ハ花よ雲の雛ぶ　大巣
こゝよ花ゝ〻よ〻こゝ花曇　琴洲
みよしの〻紙ハ雪〻て花の雪　完来
ちる花のよしのを出る乞食ぶ　野秀
花よ雪〻乞食ハ行の行仏　硯静
ハ生もちる杉美ハ花の雪〻ぶ　五雄

小さひきハさくとふ花の蕾ふ　蓋虹
ちるものハ花をうるる本のるふ　梅老
花さくやくなを拍子うたいくるる　田江
江のうるひと位もつ櫻　竹衣
廿影ゆくを高や櫻の四月分　仙風
櫻よりはいくく歩のりよ花の伏見脇　木天
宅のちりくるもも花の景らふ　芳水
花櫻むらをより仲の角分　李臺
言月や何百くく出も花の山　国水
ちくぬ人の折をくを山櫻　年心
行春の衣よめよ花さくら　几隠

隅くくの春くかりくり山櫻　脇荘
松風よ言さくくのふくくふ　大商
さくふの月春年よ二反ふ蕾　樗坐
○
陳ふ蕾ハ松ふくくを六月蕾　桂五
神月をまたの月ふ閑ふり　宇洋
をたを松よつふくくを神月欲　月底
蕾ふの八ふのりもをり言の月　素剛
名月や月年の言蕾の松　立
名月ハ蕾の松の妙の蕾　椿堂
名月や伊勢の松むら位ふを　千阿
　　雀鳴

名月やかたしらなくも隅田川　月巣
名月や松の注面　長翠
名月や新仲人の西く石　平角
名月やつきひらるる佛達　栗太
名月や山寺の屋の落墨　雄途
明日は日さすてこの名月哉　對竹
何事もなくふの月見たりけり　喜年
人さしよりつきてるすくふの月　帯梅
さふの月茅の垣根のそと迄　長敬
五の月よりくさくさをよくふの月　可興
よくゝ姿をて十五夜しく成ぬ　鞍風

秋の夜のさふよりあるる月夜哉　玄帯
月おしむ獨よ年の宵まのう　尺文
をつのりをよ稲妻ふる月哉　而后
秋の月柳十里の落ぶより　友国
人のまて月よ姿ふる戸口哉　孔卓
集のれのまこるも松の月　車太
松八月の茅ふり月八松の上　秋国
月いつさもそ落のこほたまり　乙二
松風も浪も長ふる月夜哉　梅洲
門へ出ゝ萩をひつく月夜哉　介庵
石山のさふ月ふる松の月　木容

[illegible]日[illegible]姨捨の[illegible]枕　干當
抱[illegible]こ[illegible]日や[illegible]の海の上　年凡
[illegible]場をすき[illegible]の[illegible]　可行
湖の水の色[illegible]の月　[illegible]
后の[illegible]りの[illegible]の[illegible]月　大蘇
白雲[illegible]秋[illegible]てもあり后の月　来耜
[illegible]良[illegible]なり[illegible]后の月　曽洛
[illegible]の[illegible]の[illegible]　砂女
[illegible]の[illegible]の[illegible]　卓老
[illegible]の[illegible]の[illegible]の月　篤老
[illegible]の[illegible]の[illegible]

此白湖見山下を旅人の吟して
通りし

○

[illegible]　道彦
初雪の様[illegible]の[illegible]　鹿野
[illegible]雪のうれ[illegible]　閑樹
初雪[illegible]もわるよ[illegible]　鵜聞
けう雪や人[illegible]る　男　山　祥禾
初雪の源[illegible]る郭　雪　嵐外
[illegible]雪の神　小　吐月
何[illegible]浮世[illegible]雪の[illegible]　三逮

傘の下も旅なりけり屋の雪　米彦

白妙やとのわたて辺まで雪の布　秋峯

雪の松雪は新さを見せ　圓暁

数々に花もちらくも雪の芦　桐栖

仏をもつ恒松や袖よりも小雪　魯隠

大雪よりのやんでさき数の家　推巳

毎日の雪は切不るりけり　外二

ひろうもり雪降山の家二ッ　北濱

雪の戸や切るしい雪の大鼾　墨樵

さそはくい数の雪よ雪の雪　葛女

降ちきる雪や松深よ時ゆ　木甫

枇七級五ノ上八

雪の日や庵へ移ゆ日ハ有り　泝遊

雪毎はそこの雪の山家ハ　素靡

雪やんで踏のくしゆ中て見所ハ　藤之

仏の踏雪とたりけり松の冠　寸閑

雪の日はまもそく乗しおり山ハ　木仙

降たらぬ雪のそ〻きて残月夜ハ　芋園

仏さの雪と雪の月と雪のより　為同

世の話もたく〻有ちり月と雪　秋窪

松植そく雪そそあ雪の雪　藍伝

雪の日やさくもつるなる松一木　鷺洲

ふる里やかそふ海ふる仲の雪　九魯

もろ人ふりと踏とゞめの小笹小　柳涯
雪ふや雪の八日のむらうゝ　旭宇
雪の紅葉くやしきまなかの母　春蛾
天をしまと雪の中を流るゝ　大阜

○

宝山月楼上

君恩をいよ〳〵たのし松の枝　楳間
我朝の松の新年ゝ志賀の松　一草
松葉ゝ人の袖やしたの花　方父
松ふる〳〵月雪松よ雪つゝき　少汝
暁まて三東さいのゝ庵の松　千武

八朝や松の位ゝの一ふる　洸
松吉よ松のゝ林の夜閑ま　蛾葦
松も寂〳〵居るゝ家の嵐山　浮之
行年の赤ハ松のもと和もひゝ　春思
家も老い家家の松も面白し　啟甫
松千年　雀百まで松ゝゝ　一左
白鷺ゝ松たちもとの松の　新　徐英
鳥のそらよ人も緑よ来よ菴の松　金陵
曙や沈一さいのまゝの　嚴　左扇
松ハよきものよ吉年の美ゝ年の美　竹有

林泡園より一朱樹のりおくむら
仙豊の子の日せうまて松よりそ
人うハ幸崎武隈のくしまを
運び花郭公の舞をうまてしく
身雪の名も加へ咲ひろまて
まつはよりも強しかをくしめてくゆ紀
風信あてありくるか
老てうくきものとそ松ハ千年也　應汀

年寺春

士朗
竹有
沙鴎
鹿野
可竹
月夜
普天
渭丘
有

大きなるけの玉清の　橘　朗
名残なけれども出るものの　梅葉
蕚よ蕚凡そ霜の芝の中　松双
樫の実のたくさん寺の亀　野
移らしうつりかはらずをふむ　路
炮烙を買ひくるまたなる船のあ　底
雑のこゑより志らむ山の松　竹
花をやきて年てゆくふとやし　朗
立支姫去うく鶴高よりうり　天
加へたくも法師をとめる女の子　丘
霞多多の蕚の多の清亀　有

おむかふ山のよくくたくて　蕚なくて　松後
亭洲の宮の石橋ま　月　葉
手数をそくくまする川の中　鴎
那多徒の不信書る　蝉　野
七夕の時をのを大る　桐一葉ふ　竹
をそくくまする　平敷
上代のおくくも鄙ま　砌るくも　天
宗祇の小袖多くまをもをぬ　丘
菊の書のたつまりかくる坂蕚の　杜農
四くまつをを苗のるゆ　朗
不二をを見ぬ日も一日り二日ま　葉

鯛よ〳〵と居風呂を呼　後
炭の遠〳〵よりする蓴の時　双
やすの場ハ家の蘆をかりけり　庶
咲花のまろをふるむ春の風　夕
寒うけうふの屁自分する業　農

更衣二度目ふるる業雪　豊州孟
まもいとう濃茶をくつ茂りか　桂五
業仲よのせくせる昼寝　松双
面白ますの来る仲のあくしか　可竹

かりあるいつの学り業のよ　渭丘
松風の一夏ふるる屋のよ　杜農
仲の学のそふもおくまるか　梅巣
やく〳〵の猫迷ひけり庭の花　松後
乗の花の縄とくる頃の夏か　平夕
やく〳〵なる人今朝の雪とハ　樣雀
鶯のさく〳〵やうまのをりけり　徐英
為の降うよ新業の会昔蒲　鉢九
人の業の大とる庭の涼か　呂川
さく〳〵ますみの人の帰りる　大巣
杜宇ふるうきの墨のとうふか　硯静

我影の秋よりも秋さり夜の月　菊我
月の影東にそそぐ玉の雫うる　英雀
澤さわぐなめたる井の蛙　柏亭
秋は後人うらやましき　橘老
故老樣山家にあつまる　而后
梅園に筆をとめさいりなり　沙鷗
花けしやこの山里は春の人　草人
松風も一息しまり蝉の声　卓光
乙月面や百合一輪の白雲　珉屋
短夜やけハ出来そう蛙鳴の門　菊兮
蛙鳴き出そうふるの月欲ル　求巳

卯ゝ月ゝ廿ゝ日ゝ　五雀
面白ゝ月ゝ　餘斜
霧ゝ晴ゝ　友鳳
芝卯ゝ月ゝ　松菊
夕ゝ月ゝ　竹堂
霞ゝ　金谷
四ゝ月ゝ　大商
さゝ月ゝ　駕風
月ゝ　吐山
澤ゝ風ゝ　士精
山ゝ　得芝

そらゝとる雨は青もよ郭公　可玄
湖の水はたゝふやゆの月　曽洛
雲とゆくゝゆけハ竜の姿ぶ　大蘇
浮ゝさやゝとも〳〵と魚の波　五道
夕息はせまゝもゝ夜庚寅　盛呂
井のゆは月夜ゝすの羽ぶ　楳老
滝の音我をゆきゝゝ雷音　木常
花ひらはもを落ゝゝる牡丹ぶ　梅香都
時水鶏面の井より春ゝ雪　呑鳥
梢囀ゝ分ふゝへハ時ゝ雨　月巣
鳥巳ゝ月の水鶏の義ぶ　亜碩

日の出る不二のけしきを郭公　雄途
ほとゝきす強きゝ雨を雲ぶ　如水
鳥は巣を俗世ゝ繁を掃ゝ　介亭
蛍ぬくゝ分蛍を雲ぶ　杜宇
雲面や牛のゝけ出す脳雨の所　葛秋
涼風や毎ゝ〳〵わゝる清の所　士望
山里や夏草ゝ〳〵ぬ竜ぶ　旭宇
ゝゝ雲ゝ水は月面ゝゝ時水鶏　金陵
月夏を掃出ゝ尺庵の宮ぶ　藍盛
面あしの一筋ゝゝや苔の花　應汀
花ほゝゝる椿淵へ舟さゝ入ゝ　湖風
梅間

柳の芽いとすゝけて部屋
三日月い塀の隅かり黒た雪
ほゝゝきぬ月ハまき葉の下やとり
ゝゝふもすゝ川を雪をとのゝけ源
嶋をうる雪ハ嶋ハ雪ハ杜宇
常ゝさゝさゝも羅をき藤やゝ
清宵ゝすりもつゝを西日ゝ
和ふゝ泉ハ清の つ極 杜宇

三カ 和楽
桐屏
九岳
大阜
三カ 巴主
鷺洲
珉上
十六 長安
英山
栗大
三カ 花春

枇七部五ノ上十五

とのゝよ腸をかゝうそ部ゝ
竹葉水
垣越ゝ三河の山や燕子花
芋の根のむすゝ部ゝ
さゝむゝ分のゝゝさゝ蕉
紅ちゝふ紅ゝ抱ゝ紅葉ゝ
芋ゝ蕉ゝゝ洗ひゝゝ月
夕ゝゝ山ゝ形ゝ月
嶋の雪ゝゝ花
和の花や浮葉のゝ茶
きのゝうゝゝ今

、赤蕪

十六 米彦
万賀
呼丈
鵬南
騏上
十七 亀坐
三カ 白鷺
ゴゼン 路向
三カ 卓池

四枝まも山うちもちこめる生駒ふ　楳洲
撫子よりもひやまも立て野岡の　三千彦

山居

さつ月よ秋しるる雨そ降のもき　庵野
秋もふ〜葉末の露の玉の数　秋肇
秋ふる〜山ちをもをるひとりふ　雀人
秋きつやは光る山の高紫　竹有

学菴

秋もをや月ふ小雲の扇の風冷　士朗
外ふ雨き星よりり秋ふ三よりり　良平
初秋や畠のふ〜山ふ雨つき　普天

蕣の花日ふ〜しらふ〜ふ雨ます　樗康
初午や毎の俳諧二三日　桂阿
あふ〜きこのふ〜萩の花咲ふ雀　舐糠
光角しそ日報ます〜ふ萩の花　庇芳
秋の雨のあふなすをそ月ふ　永女

甲斐草九文音

紫の戸を閉ふ〜ふ雨ふ　草丸

可都里ヶヤもをしを三書外中は
さつ〜ふ月や嵐光ハやふ〜家を拙
名月や芸角ふ〜き杉の影
十六夜や雨ふ〜月ふ〜ふ山の上

五雄三河の卓池同携し来る

枇杷窪より八風峠をあゆみく

二吟をはげむ

嘯の鶴みよ弱る事小り　士朗

山陰すゝしき雲苔のうへ　五雄

茶くらぬ人を迎て無事閑　卓池

仲間の酒のへる陳もすゝ　朗

縄すきを中出る隙の月　雄

廉の軒端のうるき柿の木　池

蓑蓬を枯くゝる勝をゆる　朗

仏むのくは赤ふ良を離れて　雄

隙駒を老の涙と弥めやり　池

大井蓑は蓑ゆるうくひて　朗

賜の蓑ハさゝらと蓑なり　雄

涙のあるよ和歌自代　池

問くハ二八の蕃を百生なり　朗

いくもり出き五位の公繁　公

夕の名残風いつもの風雲　池

蓑をかゝりの手中　雄

目くゝくゝの蓑を脇は蓑　朗

婦歯の松は伊をとゝくん　池

のゝ人なる桂を文は月雨の豆　雄

紫野の時雨の砂川乃砂　朗
やましもるかき岩そのをたち藤の　池
先ををそら乃ちるかの法師　雄
ゝをすり榜　樣子の穴へ突出す　朗
蓑子有しをる意のさを云　池
稲とくうちさへ人の志のいく　雄
少屋の戸外も秋ハありけり　朗
篇の蓑の雪るゝなりぬゝ月の雪　池
丁ゝ茅しをるゝ塔よりする　雄
風流ハひゝくるまをのゝ塔まき　朗
まもは家ら迄ぬ碓臼のぬりたゝ　池

卓池三河よかへる

文化八辛未仲秋

蓑虫集序

蓑虫庵主ハ一葉州の初秋の文ハ末尾と
の瀬よ住居やさしき春の九々草庵よあり
蓑虫なる八霜降月の七日なりけり何となく
胸うち婦しけるやうよ覚へしいさき
筆きこゆるよ遺清る名風情日
蜜巴師まりぬ書きをたるなり
この功しくて綴るく僕たらなりし湖
ありて世ふまたの翁行南子墨れ
枝をなうして巴子の揃鳥様よ以陀揃
袋をおさし櫻為といふ集作りたるも

批七款五上十九

今はむ

冬ゆ強るもろもろよりする言の分　竹有

木の葉ふるうらよ寒ふたつ言　士朗

さまざまの音の籟よ寒る木葉を　岳洛

落七株三日月の　月　棋間

枝ハまもるもろもろも一冬の名こりり　方明

ゆらいをしてをとる川上　国水

松の木まをあまをて馬の繰とり　朗

はるゝとあるあをを空ゆる　有

閨の戸をむさいは叩く朝戸　間

いまゝゝ形はるる美ゝたゝ之　洛

蓬を稽のゆちく吹はけ音　水

言の音の這ふりけも者　明

雲きりハ日のくゝきをくゝ尾　有

ちのきぬたそゆゝ色ふりなる　朗

碓井の水ハいつもうを言く　洛

駕の亀よのりてもう笛ハ松さし　間

池よ新さに花のひとゝやすく　明

菜畑よくゝまる蟲花ゝ夷　水

管ハゆのよゝまてゝ鳴ゝゝ寸　朗

まゝゝ往てもゝ人ぬてのゝく山　有

筒井筒井つゝの石の苔もを　　間
朝日うけてるまの窟の飯　　洛
覗中きぬ人ハひとりもあり　　水
簪のひらしゝ宮をとゝもくり　　明
うき張ゆきくゝあゝの黒古香　　有
ゝゝ鶴捨し歴を拾ひたん　　朗
西切ゆ詠ら山を立る紙もあり　　洛
月ゆ有り切西の　稲　つま　　間
丁一羽五百ゆ夢ゝくゝゆるゝ有り　　明
菊亭ゝゝ柳ちり出し　　水
ゆ酒も二階行屋ハ切もしゝく　　朗

二日森ゝ五ハゝゝ鬼物拾　　有
八幡宮宮雀鳴ゆ有る文ゝ山ゆ　　間
大ゝゝ形も咲ゝ月ひゝり　　洛
一柱参ゝ宮の宮の匂ひゆ　　水
泪ゝ人ゝ面　を　つゝ　　明

尾張ゆ来ゆを山をやゝまるらんと
面くも一人の文をとり出す
ゝゝ泪ハゝくゝゆゝゝゝり
いひ甲斐もあき世ゆゝゝ拾尾花　月底
孫ゆ泪ゝき紙ゝ衣の　袖　永孝

さらさらと洲まのる舟を押出して　沙鷗

ものすごくも月はあるかな　谷臥

栗飯を焚く小雀やら呼くも　烏旭

鐘をけたる聊さしの蕎　すミ

ひとつらは咲のこしの菊のうつ蕾　東坊

蕎をそそぐる青の蝋半　宇仙

兎は角まんくりの郭公　青峰

竹きもむ夕茅葺梅笠湯　底

餅ふまー餅屋の祖父が仕事　旭

扨をしまるつの嵐庵菊　鳴

咲くそそぐの咲をそのぬるる月の影　臥

原に雲田の香は漂りて　旭

うそうそ手伝ふそこひ郭人　く

雲の西日の陰を乾かす　陽

ちる花の白ひを雲は咲つ　仙

菜の花のよるる雲のよるほ　峰

悼

名を蓑さつまの多より吹日仏　岳猶

ちるものをいかもそそいぬ時雨　長夜

菊枯るる白きを原の下　立蘇

秀思ひのくも為は秋の雲　扇巴

ゆふ立さハまのこすゝ萩の露　五風
降るとも雲ハのあしを二日の月　嵐交
松のつゝ〳〵山よ八百を雲のこゝ　津風
西日ちす塚をとゝのゑる暑う哉　里桐
月やおもふ塚根ゆゝしの虫の紅　素玉
云云よてをれハ帰出しきりに　民暁
まゝくの秋のけいきもゆゝしう　蘇人
ちをとよ多くく尾花の中の家哉　天竜
秋の日の淋しきものを花のこゝ　西游
り秋の星をゝくゝゝ埃のゝう　岱明
ま面をゝ〳〵れよ如思し林花花　蘇酒

秋ゝをくゝゝりゝ風の樹の影　林志
菊の花洞るゝゝよ面ゝりゝ　椎長
絵のゝとゝ主の秋もとゝを　巴水
時雨菴の主八ゝくなりぬい　只冬
彩秋やその俳を笑の家　蛾坐
ゝ〳〵来の空切月とあゝめゝ　よし
次の百へ出ても眼よゝむ蚊雲ゝ　かき
短冊の洞義しゝゝゝゝゝゝ　つる
家ゝゝ写蛍よりもまさりゝ　ちよ
居暑ゝもゝ暑きあゝゝゝ

初七日

塚暑しよりとさつまと芸道　琴州

竜逸まるくしたる事のうなゐ意象

四月九日

秋涼き松を来やは法の寺　玉屑

柳島桜日記　巴水

夕の戸の家よりつゞく唐土　岱明

冬籠人のくるる来白雪　信孝竜

松影をたよりやはり海苔　駿百兒

けしやするやするやする業の花

ちるもこるも業ハ咲こなるの家

枇七幼五上廿四

ちるもく喜うこいう蝋牛　蕉弓

七夕のうるる夜白うるるより　萍

今よ羽をふるひ蝉の寿　ブセンうを

ちるくと日の底ふき深雪うち　三雄

淋しくと暗のそはまそかの雪　珊瑚

雪の松又々雪ふるる枯尾花　推長

牛ゆくく行や一京枯尾花　士英

小山田はたつやうアの丁一刈　筆門丁丶

拍子の日うち一日ふるまりり　斗南

新田の松ゆくうむそ胡蝶　丶五行

神仏仮寝の義の松とし　月鳥旭

きり〳〵はなをのこしてこの家に
はゝ木ゝ〳〵と秋の来るを林の風
名ゝしらぬものの気をもとゝ梅の花
山形は日〳〵望て月の山家に
菜の花や小雲八湖さ山うゝに
秋の雲夜明の名は海さたり
丁の空ひとゝ〳〵よ縄う形
生垣八朱りくは海うへる
おかやうな日和のつゝく梅に
雑子鳴けハ彩て焼ゐる雲に

維石
秀子
羅風
竹安
鹿野
千影
杏坡
文暁
天艾
南明
柳笛

数ゝ山ゝ雲をおもふそうよ河ゝきゝ
春国何まこハ家か懐へきりゝに
白雲の雲ものゝ名きゝ小家に
本地ひきの子ゝ本ゝ高
名月八何の善ゝ名ゝき月前に
桐火桶ゝきうゝ坂ハ一ゝ山ゝ
朝顔の花の物まりを明ゝめ
ゝる月の家ゝ雲ゝ雲ゝ梅家
ゝ明ゝ高ゝ〳〵ゝ河ゝ高
さゝとゝハ雑ゝ雲ゝ雲の雲
梅の花毒ゝ不呂ゝ高ゝ

由肆
千坊
竹老
素剛
大商
眉山
来紀
春波
大阜
棋道
梅堂

古猫や京菖蒲の家のもの　浪化 三津人

振引しを枝ぶりの雪の小松哉　驚耕

水隠て蔵ぶりくるり孫冥毒　有磯

すゝしさやまるる松脂のつく夕ア　洛 蒼虬

いつゝ咲いつゝ咲うゝ苔の花　春 左琴

牡の面横夢ゝ降こしをなり　江戸 即央

玉ゝ玉ゝ山ハ鞭馬ゝ時雨　、金谷

仮寝やけあり井戸の土のかり　、舎童

名月の空を寂よと鳴鴨　浪化 奇渕

釜の目ゝゝ水のをををる　淳石

何はを雪つむ京の飯けふり　江戸 李墓

鶴鶏ゝふハ茶菜のさゝりうゝ　江戸 駕見

茶ゝ石ハ人の来よいゝ物の花　、沙鴎

茶ゝ世の人の来ゝ石を山ゝつゝ　、浦旦

名月やあゝも月の飯のゝゝ　飛々 左

飽まをも茶やゝゝゝ鶴ゝ　碧山

雪をゝゝす雀も遅ゝ火をたゝ　江戸 五雄

春の鳴ゝゝ見ゝ山ハ財角の山とを　、岷江

我人も強人とゝる柳ゝゝ　浪花 外六

茶の来ハをりゝ牛の来ゝ　肥後 緒石

七夕の月ゝ歌ハ茶ゝ鶴ゝ　江戸 岳輅

夕ゝ雪ゝをゝ　、すゝ

落入まて咲るや井に菊の花　信濃 雲帯
桔咲く門押開て住居かな　其應
鶯やこの節田けハ藪小路　三河 佳雄
人声の月をふくみて枯宿し　ヲハリ 国水
朝なくよしの初瀬の根深汁　、昨来
月の夜の毎夜なりて秋の風　、菊人
七夕やうろく人出ありけり渉茅に　出雲 花叔
鶯や二十四橋の夕霞　尾張 九岳
太鼓鳴く村に立けり雲の峯　、家井
廿日過きし月の倦まて清になり　浪花 萬和
晝の顔の色のうつりなり庵の外　其道

はしてきき海の光や夏木立　大津 駅道
秋の子にとハとの字古より　ヲハリ 查也
月の出に二人にありし跡の町　、黄山
時鳥鳴や尾花も鬼くきまれて　飛騨 怡亭
猶咲に二足三足の初しくれ　甲斐 可都里
たゆみて日ハ出まして八重霞　雲羅
別るしと思へハ暮しすの春　ヲハリ 桂五
星う日の暮ても雪の山家かな　、永ゑ
一雛ハ霜に鶯く門田かな　洛 茂良
新枕の咲をたく宮を覗くなり　ヲハリ 武草
小松の声いやまて山寺に埋もれて　大ツ 玉来

動くぬいかれそうしく雲の雲
白雲も移りて雲の雄川うつる
正雪を松のかよはまるの　函
雪よりもいかれまく雲のそ苔蘚
山人ハ猶といふ雪より国出る
雲の苔蘚を雲ひとひと人うまる
降雪の〳〵雪れもしう松雪花
雲うう〳〵や雪長ハいろ〳〵の山の僊
雪の事を雪も雪うて神機
絶緯の雪う雪を松う落ル
う雪雪く〳〵逢其し〳〵雪の雪ハう〳〵

吾来　尾張寺春基堂
野乗　尾張
月底
千阿　三河
朱月　スハリ
吐山
不卜　ムーセ
希言　信
百樹　スハリ
松菊

紅梅ハ雪のふたつ来て咲ぬ
余波をき書や雪を燒雪ねうら
小雪そふ雪雪ふの中のひう〳〵ル
雪ハよ雪ハ雪のふく雪の函
花の弥生一日雪のかくもう雪
柏尾花雪頭ひの瓦〳〵き
雪のやうル蝶雪〳〵雪る山人ル
菓の花や雪う〳〵ひる雪う〳〵
何ふたとへんそも水雪月の松の風
松もすう〳〵笛の雪雪附函
柏〳〵池ハ唐黍う〳〵の酒ぬうう

天老　浪花
魯隠
五嶺
完来　江戸
騏六　スハリ
亀六
六害　洛
巣居　公家
兎雪
阿城　スハリ

臘梅よ似たるすゝこ所柳哉

、呂柏 浪花 買風

冬の雲雪きし山を出よりり

椿堂 イセ

松ゝけや蝿よ如ゝたる梅蕾

素楳 遠江

于庶や旭のすやき曉ゝ墨

李曉 下野

一日のゝしきを月や暗の雲

立而 長崎

嘶ほの石葉の雲より雲乾る

吾友 ヲハリ

大仏のゝ孝のゝるゝ雲の尾

我丈

雲のゝ蝶ハよりと雲所外

、圓曉

枯風の人をめよゝり鈎葱

、竜舎

時雨や師走ゝと雲き天王寺

、對我

魂棚の外よ所の雲きゝ雲所

、棋間 江戸 ゝ乃雲

何もゝゝ雲數くゝし枯の西

三ゝ 普天

ゝゝしさの扉よ所雲所雲所

宇品 在中

雲雲鶯の果ゝゝ雲の雲所ゝゝ

下総 太錦

枯ゝゝ猿の梢ゝ山一雲所

一章

棋ゝ香よゝゝ雲の雲の朝日外

信濃 嵐外

元日やゝ雲雲も花咲山の形

尾張 硯静

雲しゝ知ゝ雲雲の八雲ゝ義雲義

、謙高

り人よ雲所のゝる峠ゝゝ

浪花 瑞馬

雲ゝ雲ゝる雲所ゝ雲雲ゝる雲ゝ所

洛 月居

後ゝゝ雲ゝゝ雲ゝ雲ゝ雲 碓

[illegible]の乳のほのぼのとうすき[illegible]
[illegible]尾上の松の日ぬるる
[illegible]雪の竹うる旦　[illegible]
[illegible]の若水をくむ[illegible]月[illegible]
[illegible]雪を吸もそうさは虫の[illegible]
[illegible]柳の新ふもとに[illegible]より
[illegible]明てもはやの[illegible]町や梢の花
[illegible]ほとすきの[illegible]
[illegible]すまよ梅のふけたる戸口[illegible]
十年も同じ新年の[illegible]
[illegible]

浪花　米彦
二長
烏功
スリ　少汝
冠市
越ゴ　喜年
シナノ　素蘖
可立
下ノ関　憐霞
スリ　盧橘
江戸　よし周

日の[illegible]のきし柳[illegible]
[illegible]の[illegible]里[illegible]
菴ひとつ拾ひ出し[illegible]たる山桜
涅槃会や鄙ハさひしき梅林
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]入りいなや出くる夏の月
唐[illegible]ふくるや蕨の影[illegible]
炭焼[illegible]
浅茅[illegible]の上の影ほし
[illegible]人は[illegible]
[illegible]

洛　楳價
ヒコ　萩里
スリ　泰浦
セタ　雄渕
長崎　其狄
イセ　兵高
スリ　吉甫
南暁
仙堂　冥〻
鳴海　菊三
筑前　泉左

葦原接る日八幡　廿九

鹿の声の哀をさそふ雁かな

ふる雪や冨士の裏面の景

雨ふるけく雁ら等を冬の月

〃　鶴ゝ雪の翼ふけり山茶花

〃　都暁

〃　暁吾

行掃りの書き寄せの理科かな

〃　玄蛙

穀うけも芥子一うの身和

〃　文角

嗚呼ゝすいきよのる竜胆

〃　一草

書の山同しさすがハ五月雨

〃　山九

白露の雲よりうせしこほろぎの

〃　春蛾

すゝしさや湯を呑ん安宅うら

〃　竹思

自牧

〃　葦泊

〃　可青

涼しさの月をまつ俤ゝ

〃　春思

法子の月はこの秋ゝ雲ゝ

明石　蝸国

月ゝ日て世八月ゝ生涯乱ゝ

〃　谷卧

廉の雲ゝ雲ゝ言ふ世ゝ

〃　住楽

湖孤暁月和ハ言ゝ

〃　野喬

黒谷ハよい名なりけりとき

洛　盛李

合歓の花塔へ出ん八日八幡

飛弾　儲史

白菊のぬゝもも白くぬゝ分

〃　對竹

冬古書仏よりゝ竹の高

〃　歸来

冬の雨ゝ言ゝ言の葉ゝ

〃　大巣

大ゝ言ハ加ゝふゝ言の小栗　地

〃　宇仙

長キ 菊也
サカモト 于當
イセ 推巳
スハリ 秋峯
スハリ 麥阿
、東陽
肥ヒ 巴人
スハリ ちつ〻
、士竜
大ツ 鳥頂

三河 卓池
スハリ 大蘇
長門 鞍凡
越後 峨東
伊勢 翠川
尾張 青磯
平松 亜溪
江戸 果兆
ヨスリ 素仙
大津 宇洋

ゆきこうまとハ萩よ花の咲きなん
くふかてハ面もなくす山さくら　一松
枯風や白ずくへぬる泊馬　里桐
むく鼠よ旭をとゝのもむ秋のうゝ　浪花麥太
美ものゝ入歯こゝをしー涅槃哉　尾張其幽
連歌岸まもよゝ法書の身　洛丈左
書の歌や藤芳の身八術不出る　立蘇
附句るや秋さへ至さく作の爽　信濃蕉雨
ち秋ハしやても書るよ葛の花　里斐漫く
岸の火よまをもむ秋あくゝ小　奥曰人
参好を五尺さ句まを好　ちよ
よし

岸や爰ゝ人さる　書ゝ
ゝの名さに書や爰の鶴印　尾州尾閑樹
書の歌よ猫ぬまゝ埋ぬく　ゝ女翠山
力をや秋よるゝ月ゝの高重　近江砂文
歌ハ夫ゝ月琴の一重の鴨の声　江戸成美
ゝまゝる日の一ゝ月ゝ附句ゝ　江戸野秀
約書や秋ゝ句の甲斐後淡　肥後栢堂
撫ゝゝき世よゝゝ山櫛　尾張眠石
石川や石ハ根つよ五月雨　士朗
牧屋のゝぬ歌をたの一ゝの響　几翠
世忘まをゝ入ゝ書　芝　民暁
雀室乙二

雪くもるすゑはかすみの岩ゝ　尾張　方明

ちつゝきの菊のよそをる日和ゝ　肥後　樓雲

常春あきく〳〵ホくの桜梅ゝり　和水

星てるや蕭蕭の霧の聲は　琴州

春雨くもれのよそをり冬の月　西滸

七樹や芋の中すも梅の花　尾ハリ　玉道

我宿の蕨八人はつまをりり　白之

春雨ふさ〳〵ミのつく蛍ゝ　近江　芳之

戸口さへ何をハるをり蜀の花　肥コ　夢白

燕来て昭けハ夢る芋鞋ゝ　イセ　孔阜

枕尾の戸はるさまるく小つまゝ　ヲハリ　徐英

一ふるゝやうつり沖の丘の川　イセ　李東

をを形ふ家〳〵の雪の雲ゝ　推長

舟つ来くおの子八黒一枝の風　青梁

夕きりや不〳〵の魚　ヲハリ　標

宿ゝりて時雨の名をあらゝ　遠州　木南

月雪もうぬ来兎のすゝ〳〵ゝ　尾張　壺屋

蛾の巣のふゝをををり初時雨　丶呼家

月雪の作すもゝ〳〵ゝ　肥コ　兎毛

何書て月〳〵くも沸き園扇ゝ　ヲハリ　竹有

戸明をハ芙蓉のうる住居ゝ　只冬

昔神〳〵習くの名を芋子の花　筑後　其成

遠州 素棋
ヨスリ 斗石
朝蒲
周瑞
つるき
都船
浪花 虹宗
クロ 双鳥
ヨスリ 元美
イヨ 樓堂

ゆしとりさい八山家の梅のちる日ハ
雪の樣ちやうなる咲し菴の梅
美ハ仲うりたれ弟よ体をくりり
り枯ハ何をうらすの如さつ三ッ
和丁やとまてアそ〳〵能ハ山
沸〳〵さや枯の面の星の亀
ましら嶋山へも遠〳〵雷古香
枕寂〳〵蝶ものいそ森もやそ
父母の新月より りん子のうま
照る月よりへうきもる樣ハ

父の新月のそのゝ古のうらよ
のもりたるをかゝ〳〵はなくも蝶しらも
芝ゝゝ〳〵巷来よくまれしぬ
常の来て鳴ぬ日なりけ
書〳〵〳〵屋の梅よ咲くらそ
元日や もり〳〵るうの山形歳
何家ゝゝ和ひらを和ん像
春もすゝゝ家ゝ雪丁の面ハ
沖の潮八踏よもゝ沙子ハ
り書をなよをまんゝ
今朝ゝゝ八ゝ郭〳〵山梅

降や雲は猶まうくるものよ書の面
蒙の毛をこうる和眠平松の新
書面や鶏の屋を引蒙のこ
蒙ひくり風吹きしものう書の面
小雪ふる日おりくり初桜
蒙新を押うく決の蛙うか
杉の蒙蒙を雲雲も蒙蒙
むう雀書の佛山吹蒙
白雲をしと紙をくり蒙の月
戸明を八新八蒙の蒙蒙
を八誰を書面の中の一蒙

曇る松八月の色よりを明るか
かくくくを月八をたり蒙蒙
短くしとくり蒙八空の蒙蒙
物もおきを蒙やりたり風蒙る
動り面や海八海とく浮ひる
きのかくかを鶏吹蒙を泊り
竹の毛蒙つくるかう白ふ虎
を虎をくけ浮巣の雛の蒙
先天のむ鶏のひくを巣の花
人里の遠くも吹く沢蒙香
大空八何かあるやう吹 雪

杜風の時雨しくれ冴の杉
夕月は新よりもまさる面白し
出るを見ては只鄙木のひとつぶ
銀貝やとりの毛も咲交り
ふるるやと徒名入たり窓の月
早稲の穂の穂よりかすかに蕎麦
何ごとも涙なりけりふの月
きもちくしに打戸押へて寝ぬる
久しきよりまるる杜のうらぶ
人は行く萩の中を通りけり
朝霧をうけて菊蕾の天キぶ

降出るぬるるに佛し杜の雨
杜風や秋の山の初もみぢ
絶くよ寒てそよぐ小夜雄
人家の庵しきなの月ぶ
廉をし等丁も鳴すり好の月
杜鵑京茨かつるの粧清し
乾渡るけるの清きよ鳴子音
世を廣くなるこのてを絶毫
一丁ふるし萩のかぶる高
ふを禁を蔭かるるを鹿
ふ秋や菴ハ木葉ふ埋を

宮巴ハ紙上の詹ニ在也或殺
の由免ニ試筆孫まつきしる人
ゐ逢ふもて登以ハ宮巴出古ふへ
至楊下の應接修須ある藝也
左迷澄め笑哀面照す人
筆小そし證の振諸ニ
ゐ人そ

朱樹園人
士朗

泣瓢集

池雲隱士東し妙法ちさくの
婦人逸を愛す宮碁拾盛
ニ用尚ふさしゐくえふへく
常ニ盤の小く葺少し
之須かり起し小神仏ニ
むりふ財を鶴鞍し
加ゝけをうまくしき は
未魚しくゐるとき驚き
人のその婦も色別したる
其ふ身動を得たハ大泣ニ

南家生し子の国辞しがたく
そもそもより人今よりこれを他へて
なき婦人久留としてふ妻宮の
木の枝をしかれさりけるに
高しまし世を捨てを能ふ
あ生こと赤くひ色ものすれ
もそうあしとハ
かすし世

孝義の賜ものなる鶴 大阜
秋八月の末つ方 弧雲の裏
蘭の香り和山の書中語ふ 墨山
和の書うつの鉢ゆりけり 彭朔
為清しあうるおの極して 周敦
もとの部より抜し 四鉢 阜
雑説のまし中る角の像出 雲
まし書もの亜義家の義 山
ふとりの道弦ゆうる畠 朔
男ふくしと源翼は白く 敦

約束ハ多馬志ゝ夕よ高　阜
二日の日かゝ月の相　宿　雲
志ゝとゝふ人ハ藤させる重紙　山
白菜をうり菜の花　咲　朝
浦風よりくゝまる波のまま廂　秋
うゝふゝさけそ錫はもゝし　阜
玉鮮の京ことはゝく八重桜　雲
鶯濃合をゝる春の世界　山
誰やゝう睡よ似る兄弟　朝
法華をする常陸常うう　秋
たゝ書うゝ世ゝ百板八藤の義花　阜

枕七紙五ノ上十

面もるゝ雲のむゝ　元　雲
ほゝきに阿波潟の色よ橘う重て　山
ゝ乙女うゝふ小国の吉日　朝
棟上の餅をゝくゝまくつの沼　秋
四天の鉢をゝとく　祖　板　阜
玉垂の義仏多形一ゝき　雲
朝風ゝたる列　水の月　山
幣ゝる白の面のうゝゝき　朝
世つき傍ゝ伊達のゝ家　秋
梁の白くき一日の古　硯　阜
豆板ほゝて人目をくらん　雲

この河の情あしき所一ヒ新墨一第
山
つまさて咲きし花の多きを
勅
連歌はたき大うつろふ嵯峨の所
安
新子つそめの石墨ふ行あふ
阜

大阜　八
兆雲　七
墨山　七
彭翔　七
甬敬　七

太阜　尾張ふ帰る
卓池
女かりかりの
大阜
一日を山の繁り
岱呂
青き杉の薫ふ
池
いきつつ小雨
阜
葉のかくりのう
呂
高い〳〵と鶯
阜
うらをたる霧の見晴し
呂
稀つきのう紙
池
女かりかりの
阜
家ふうつ茅
呂

[illegible]と[illegible]に[illegible]を知しるる　池
灌佛は満[illegible]を[illegible]ひのけく　阜
砂[illegible]よりて日[illegible]る朝[illegible]　呂
月[illegible]りとちいさきかるるを押の[illegible]　池
あ[illegible]を雲のちぐ〳〵となく　阜
[illegible]たひらきて八[illegible]ふ[illegible]子綱　呂
[illegible]よさ〳〵桜の[illegible]る関の戸　池
[illegible]花よりのしく〳〵桜[illegible]　阜
[illegible]なくて[illegible]へ[illegible]天[illegible]丁[illegible]　呂
[illegible]け[illegible]ふ[illegible]伝[illegible]風を[illegible]　池
[illegible]ふと[illegible]ふ[illegible]て[illegible]人朝の[illegible]　阜

[illegible]雪より[illegible]をさくつる[illegible]　呂
山[illegible]花をうてんり[illegible]　池
[illegible]とり[illegible]八[illegible]　阜
小[illegible]の[illegible]の[illegible]　呂
[illegible]絵[illegible]の[illegible]　池
[illegible]の[illegible]を[illegible]る[illegible]の[illegible]　阜
蛾[illegible]のみく[illegible]　呂
六月[illegible]　池
[illegible]方より[illegible]を[illegible]る[illegible]　阜
[illegible]人の[illegible]る[illegible]の[illegible]　呂
古[illegible]花の[illegible]　池

かゝさをゝる数のそらえ　阜
あけはなれんかすき舞とりて　呂
弦琴をとけみ琴もたまゝと　池
うゝしの〻奥の面の音　阜
吉きすゝをうゝる笑体　呂

卓池　十二
大阜　十二
岱呂　十二

〻ゝまゝつ分を亟弦の信をし　大阜
雷のうすゝく苔の一面　秋拳
碑東紅四石水をうえて蔭らせ　士朗
月のたゝりの陽を陰てる　阜
俗間をつゝて居し林の風　拳
ゝるゝの音の〻ゝ　朗
いゝゝあひの絶〻ゝ行き甲斐浦の　阜
月地をうりて一斎入る　拳
夕虹の若荒きしひを消り　朗
茨の花をあきに咲つゝき　阜

黨よ春を八月菓の頃き出る殆
二月道さる二毋の麦糠　朗
玉緒春の仏事もなく殘る月　阜
安う原沸つの時萩村　挙
沸〳〵さ月廉の色たる芒の穂　朗
簑も濡もさ交りたり　阜
清〳〵さ〳〵登る日至菊の蕊　挙
物の穂をとたる〳〵もち　朗
海鬢海ら昌も寒き高柱　阜
馬よめ〳〵言人おもひて色　朗
夜〳〵に十日さかりも拾く沈　阜

洲七級五上四西

墓墓の遠ふ闇の入口　朗
象はりてまく〳〵蟬の声　阜
鳴〳〵〳〵崖ちい〳〵　朗
朝鮮の新潟の雲の積こて　阜
月八方ものしゃく〳〵　朗
雨〳〵せ鉄横ねる橋の穂よ　阜
秋八たこの鐘ありたり　朗
か〳〵鳥も鉄沈沈の海の言　阜
蛸一本のむ〳〵よ　朗
堂宿よ窓をきめを罰河り　阜
ふ〳〵の場を寄りつたる　朗

笛吹き立てたる童　雛　阜

外の桜風　花の書うを　鹿野

茅舎のめくる小口八橋若菜　阜

角まきて行くゝ雪の霧　仝

大阜　十六

秋峯　六

士朗　十三

鹿野　一

枇七ノ五上四十五

水鶏の名ハ忘れけり桜の月　沙鶏

元やりゝゝ霧の上風　大阜

蕎麦畑の花白く霜　月底

行をゆくて書　雲

雪竹の四尺ゆ尺と生て来る　竹有

以降の朝日の白ふ人寒　雨耕

茅舎の高軒　水源く海濱　阜

ふゝの蕎を張ふ桜ゝ兵　鴉

つき月ふる新人の紙の蕎麦　底

世彩ゝ波苔の花雪ゝ夕　有

仏帰る日は掛小木り新しき　不物
蔓よりうるまく井戸の蕣　移変
異界の月衰有り島の雲　吳山
光りきぬたの多聲りよ物　雲
御蔵の小窓を寺住訓て　卓老
はよかくを居る元日　埜山
一天の書きを郷と安石り　庵
ちちを庵き仲磨の変　阜
下京の高は高漆のとり　有
小六いうしふを注如しよりり　而石
微雨ふる蔵の閑よ月を蔵　鳴

穀蔵は穀をとりよりり　金樵
萱堂は加の墓原のたつまや　阜
かもよ遠まてを石拾あらん　元
裏の手の勢ふをを一郷　有
御盃り口よ引に　鳴
原手の旬ふ柳を打撫め　樵
すらすら水の菓よ蔵もの　庵
撫打まと鳴り三河のきもを　閑
双六うもよ打を原びひ　鳴
炬きしの梨をををまね　雲
蔵よ位のそもををきく　樵

あかし蓼句のは何ゝ細ゝ草たきみ　若

松のおほろハよきし飾り蘭　閑

川上の柳ゝ花の香手添く　老

志はしとて出そ立と寄りハ手し　呉

沙鷗 四　鴉閭 二　大阜 四

呉山 二　月庭 四　阜老 三

岱雲 三　楚山 一　竹有 四

雨耕 一　金樵 三　不轉 二

浪華昔越日十穀年ゝ茲

難髮留其地郷人遂建碑

會の花の面まハ髪塚なりの

ゝ方ま

押よとてしおきせゝ菓ぼ九月限　大阜

濡を添ふ身ゐる秋のしつらは　魯隠

不消のうけ緑ゝ日絶出據て　鷲雪

杜闌と鮮ゆくゆ板の方　长致

ちつ取和すゝれと井戸へ取落　堤

桃も出絹こも裾よまへつ手　雪

傘うしてきせハ屋さぬ土不志　致

ゆをうゝこの風さはくらんて　隈
ゆゝ附ハあもひよまけて薄まもや　雪
牧の扇をもるゝ夕　負の花　秋
清ゝもあすその鈴をきゝ薄　隈
あゝ　ゝ入江の　月　舟　雪
秋の月かゝゝ　ゝ　登り　秋
鶴ゝゝゝよりゝゝ　鶴　風　隈
世の立の面おも　海さる霧　雪
かよはき格よハ　の花　咲　秋
老ぬ生ハうれき　書もかゝ　隈
梅ゝゝ　家ゝ　島のちゝ　紀　雪

面壁の白ゝ　葉の数かゝて　秋
かゝゝのゝ　雪の　妙　隈
向紙ゝ　義　殿　系の　なへて　雪
書ゝ　ゝ　責る　ゝ　ゝ　秋
紙ゝ　紙ゝ　ゝ　ゝ　隈
世をうゝ　川ゝ　流ゝ　間引葉　雪
時ゝ　ゝ　ゝ　ゝの上の　二日の月　秋
ゝ　ゝ　ゝの　柳ゝ　花　出る　隈
いゝゝ　せを　格ゝ　ゝ　ゝ　雪
五のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　秋
短冊の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　隈

ほつ〳〵と帝のたゝし給ふ　雪
砂をよ家鄰の車れしなやを　永
沙汰をつゝく浦の年寄　隠
のむしろ光日のさしぬる海の上　雪
ゆ〳〵しと朝おとなく　永
樹蓋の花の四かりの涼くまを　阜
つきを角くも波兼津の芦　仝

大阜　三　魯隠　士
鵞雪　士　長永　士

ゆ〳〵夕の守山をしゝ時分　硯静
馬のうり色はさくく柏芦　大阜
新治のおもをつむ穴埼　大巣
十日の沙のをやき屋　呂川
きをも美人槙の身のゆり　周瑞
萩の冠を蔦を風　静
ゝ蔦は蔦を振るゝ杖の塚　阜
古墳つゝ高ゝも沖　巣
祢の夢は輝さくゝ　川
嬰粟たしよせて稔ゝ　瑞

いつはりの人はかくしてふり向きて　野喬
小所の場まうきを語るゝ　圃暁
さやけきハ月はかりなる丑の刻　静
ものゝかくし林の枝折戸　阜
岩そゝる水は明るの人賜の家　巣
おりん日ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲　雲
高ゆそ〳〵ゆうゝ嶺の松花の風　川
遠寄ハ人ハ雲ハ雲ハ雲ハ雲　静
ゆはら〳〵鄙は樵ちさゝは　阜
降つゝ〳〵る雪の家　巣
浪よする香良浦の夕ゝ角　静

紀の路へゆゝ五位の一群　川
うゝ偶は月のいとりを注ぎ　巣
さゝゝは繋る神のゝ子　暁
それそとハ誰ゝ言ん花ゝ　瑞
夕暮そやき鹿の清かゝ　静
木兎を見る鶯の色まゝり　川
豆腐よひ〳〵郎大寺のゝ　巣
三日月ハ月のはゝ雲と柳　阜
勘解由ゝ雪るまとゝ稲の芳口　瑞
麻戒そゝハ打そも面ゝき　静
ふるての紋のちさき山里　川

ひのみをほうらう方へまのあたり　巣
あるも書き時雨の〜　まち　阜
こき寄る〜菊の空む絵の具皿　瑞
水よりけろふる梅ちる〜さ　静

硯静八　周瑞五
大阜五　野喬二
大巣七　風暁三
呂川六

竹ら日花菊を屋ん〜ふり
も立て竹ふ家の白ひり
ゆ〜て笑顔〜〜
名菊庵てふ〜〜菊て顔を提て　士朗
朝菊て〜ふく〜菊て顔を提て　大鶴
月の滴りたる〜き紅の唐かし　海翁
はなを八葉の〜の深まて毒ひる　朗
酔法〜〜ふひて毒山の杖を岩　鶴
ちり〜〜ちて法排ひ　海

文化八年亥本　境月

枇七敍五ノ上五十一

白兎集序

枇杷園小ちりまるる頃人
墨客の庵に對して壁山の
行きを忍びて入れば
今秋ひらまし事に堂を

さらさらと句をいひ合ふ面白
梅葉手ずから取りの色
玉兎と称名滝の蹴鞠模
鮮やかなる月と梅との匂ひ
よりいとおもし

梅閑

郊外の月を見んと席を出でけるあと
二里半うくてきをのぼりたる杉の木
陰のいと涼きに見るとの色絵あるんと
杉ともの半のうつりたるこの高き樹
下にうつる部分の胡麻の様なるの
なるべきよう絵もなく萩葉軒を掩ひ薄ハ
東西の種をとつ池の色とり八ッさら人
絵絶色のわたしてハ牛乳の梅形ありある
八落てくさら色を沼もちもも

いとうもなく老てゝ婦をしたがへ
石燈籠もまだハうけるすきまなく苔
むしさびうゝ百年のむかしを思ひ
年ゝ殘りあるハ紫堤もの物をの
ゝゝ多ゝ多ゝ中ゝ行ゝ者ゝ
なし松ハ人ゝ中ゝ行ゝ者ゝさすゝ
藥地のさとゝなるまきるゝもあるゝ
古寺苔物經のもるなるゝかゝ極を
ゝゝ見ゝ寺ゝまゝをゝるゝハすゝ強ゝ
月も出ぬゝゝゝん人のゝゝゝんゝハ偶
くまもなきさゝ松柏の葉ゝ生ゝ殘ゝ

蟋蟀の鳴中にあるものハ
たゞまを月の沈なるをもいふかもて
あるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ月ハ西の小高ゝゝゝゝゝゝゝゝ
松風ハいつしゝ虫ハ月ハ秋ゝゝゝ

○月ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古人一言ゝ風無ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
彼月の名たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝハ光角ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の美ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
弦月の美を離れ

仙人なりと老人つうしきを踏巣小坂より深
寂たる谷ふかむくへハ日比の友小童しく
ゝ
ゝ
ゝ

江のゝ中橋を立たる月の友　徐英

○いりおもも脊のゝもき山伏しのゝいひなるハ
扇出くり大ゝる谷ゝ出くり雲十家ゝ
四尺年の谷ゝ出くりくハ根おく　恒
ゝ出ゝ出ゝ出ゝ人ねちいさき谷ゝ出ゝ
秋へもへる亀きゝとの谷ゝ出たといゝ出ゝ
ゝ紀の雲ゝをつゝめなる頑なる男　恒
いひなゝ脊のゝもき人ハ大ゝ人ゝ脊の低

き人ハちいゝ人ゝ人ゝるゝ和たく兼答笠盃を
と有ゝのゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ

三日月ハ月のいゝはよゝ人ゝの月　芳水

○芒ハ月小紙ゝ浦ゝく月ハ芒を出ゝ
清ゝゝゝ人ゝ雲ゝ雲ゝ山ゝ廃ゝけく　瓢の
酒ゝ人ゝ破ゝハ打ゝ人ゝ松風の姿ゝ人ゝ
見ゝゝハ涙の根ゝ言ゝ月ゝ言ゝ月ゝ紙
紙ゝゝゝ人ゝ人ゝ人ゝ南山壽

月ゝ月ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ田江

○つゝ敷翁ひゝゝのちゝゝを巣ゝりゝくま
ゝゝふゝゝのゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ

火鼠の皮ハむさしとて手ふれ難き仏の
鉢ハ珠玉くさく詩のうらの玉ハ歌ま
をしなとわさとさるくをり焚因の
杜のえもいはぬ菓の花かゝを香り鉢七宝そ
ゆさをつまとも折やまた菊ふまりて竹
をうゝゝをんとゝ言ふ竹をこれふこさへ言
蓬莱のみゆ寄とかゝ秋の月　對竹

○雲を簾ゆ菊ハ人の得をり
月の林間はいさよふ松をやゝる
こゝ哉のやうよ深世ハ今しさし　葛亥

○葉月のけ屋紙のふまついをそ
紙七拾五下四

家あゝの錦を紡ふこゝ月の松ひをりをり
今宵ハ朱樹の菊ゆ對しこゝ
行の末のあうもいをす松の月　奇渕

○濁柿のをつ落しをるゆゝ月れをき
畑小たつ
鶉陽ゆ日ハ押ゆをて秋の菊　柏亭

○月ふをゝふまつゝもの八寝ゝ半も寄ゝ
すとゝいふれきゝ言ををりをゝをへのゝゝ
ゆゝ二日月の君ゆまつゝりその陰をり
ゆきをゝうゝひ情をふゝゝすゝゝの星り
なをまつゝをもまれゝふて風流ををゝもゝひ

まもなく萩の月出か
れの事とさもあるべき
ようこのたびの事すべて
ハ
ものく御名世ふりくるを
なく名月と
中秋ひとり月に付夜月男と名のりて
御前書とする
月ふるる雲ふりハおもしろ　東陽
○源平ハ詩をれよ嫌ハ樂〳〵不破の
関屋ハ鶴も鳴　秋擧
ふ彼の月法花経ハ深さりが
○枝ハものれわ月なり源氏のあハ

れをかくすをのハ名をつ〳〵
樹ふをあるを一樹を嘆〳〵
少ゆるハ萩の葉なり胡の月　岱呂
○おくの地をもくる一筆家あり額よ雨月
の二字をうつ西ハ潮湖の秋の名月ハ舟を
湖屋ふ深ふ中のぬしあるもつくろ
隠の秋をたるをも達人にあまるの色
ものまたるをもうくるかをふ不破の名
あまもも秋の笠を洗を
清元よ月の面しる本の名ふ　楳洲
○むりく二むりく又一むりく源高

二むかしのむかし月に棲あり木あるきハ
しるき松月庵とて呼ばれけるを其前の
庵に一株今しなきハきしのふハ人の一茎
四昔主人といひし名のしるきやく

四むかしの昔を月の五むかし　午風

○のさまししよ涼しよ月ハつれなき
そのあそおもしろやくらしくあまこい
松月を根ざさ留豆つきとすまうとと
まてまくまても皆風雅の種なれハ人とと
なりてハ月をしらうてしきものハなし

秋の秋ハ月をもちくる草かな　雪封

○清洲古城跡にて

行ひとつ月にうつろふ狸もなし　雀人

○あるを憐むハ花結書の夕へ月にさはら
ぬしられそうて秋の荒中あそ月に寄り風
あくしるに月ハいつれるへくも者し
むまハ愛をおもふるせぬ花を
名のは揺れ

初けよ須ケ中まさ白うハ月の雪　應汀

○二見の浦にて

名りを継まうあてんと秋の窓　推已（イセ）

○閑坐

名りや今来し雪八十年ぞ　千世　翠川

○山陰

名りやせぬ雪の谷の笹　イセ　省我

名月のたぐひ八幡へ鬼ゝから　圃暁

○嵯峨の秋をはりわるきこゝ

出るものゝ多くこゝ八居られぬ秋の月　五雄

ゐなかのつもる夕夜ゝ　硯静

○花のたとへ雪ゝ　[illegible]

法師もまた[illegible]八陶家の出よ[illegible]

徒利ゝ名りてんと[illegible]

の風流思ひ[illegible]

生て居ゝ時ゝ平家と[illegible]の月　竹有

○不破の関屋の荒[illegible]

[illegible]

○[illegible]　平永

[illegible]

人のもの[illegible]

名りをそれ山家の秋ゝ　卓池

○百年園ゝ萩ゝ[illegible]

をうゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

杉の朝日こそまさに八日ふく甚雨降りぬ
けり昊蒼うらうらとして蒹葭は似るかりまくまくに見をぶして
似るかりまくまくに見をぶして

むかしの人のよみたりける歌の中に　九岳

○あるかたをたのむる歌とて名をかくして詠める人
ひりつ雲間ふかき雲をとして岸うる雨あり
或時山里の田口の雨岸うりたるとは
後世の雲間口うらの雨つくりたるあるべし
大の古くに時代たりしより蜻蛉を扱
出たる雨ぬりて雨傘をとりひみ雨るる水
あくにいつもの岸うりかまるありかくる

あくにいつもの岸うりかまるありかくる
のをあるあくにひてさるとあり
雨傘をとりひみ雨るる水
外にて時代たりしより雨傘は雨傘と名
ありよくに雨口うらの雨つくりたるあるべし
大の古くに時代たりしより雨傘は雨傘
雨もをうりて雨傘をとりて
やをきをなるりて雨傘は雨傘
雨かさの雨傘つくりたりやもしろく
なりて雨傘をとりて雨傘も雨傘
けるの中雨傘の雨傘と雨傘と雨傘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]　求已

[illegible]

○[illegible]　若翁

[illegible]

[illegible]

○[illegible]　伊賀　松居

[illegible]

[illegible]　若明

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]　孫　杜農

[illegible]

をうきしづめる二階くまのはうよりのぞ
しを幸ひ嵐の古巣もる星ふる泊法利
を奏しをあの小舟の峰より向ふ屋を
ひも橋渡さを渡しふるくまもとし
たえふまじきよ乗下を見下す
砧虫の音を手枕よ雲樹の月夜さ
をしらんん旅寝の月の落ふとん二階の
みちく奇色いろ月くて夢のむねく這のほ
三千世界を我ものゝ毎しくゝ湖ふ松風
をうけり月さくるを見えそ
大原よ小唄うちしくて月ふ

菅沼

○仏を座より一ツの念仏あるを奇のあ
奥仏ゆり仏ハくよ奥ふかく奏りて
日新を奏して宝蓮とあり十和ハ
寂寞の夢をもつて宝よ夢の人夢を
さくしよりの敵の風情をもつぬ
ゆゝ仏宝下よ机をよをて夢よ自然
の果情をゆるを

唐の月色くよるを風すり　黄山

○三笠山のゆゝ月雲をしりて

月の出る山を雲の中ゆゝ

○　疑團虚空無躰　野喬

[illegible]八月[illegible]　浦且

○林間の月　士精

[illegible]

[illegible]　乙丸

○[illegible]　對我

[illegible]　雉雀

○[illegible]

蛇蜻の[illegible]　桃蹊

[illegible]　巴主

○[illegible]　庭雅

[illegible]

○[illegible]　彩蕪

[illegible]

[illegible]

ものもいはでせめてやんもらうかゝしく
是も其方おのなよいさめんと挟きもし
ろ再ひさゆし合も酒くとかはしその書
あらし無つ京まゐりや酸とゆ時まで家も
又那す四題の出家まあ出家さんくに背ハ
月を見し山の紹まかゝらで只今入けさ色去
なり無宅の弟子ハいゝうとうん出ハ雲の
恭しき八方し度さしるひて月と共に
清んしもさるゝ世様の実りをむきんる
とゝよ家観なる事をしらす
淋しさをはつきんて月ハ兎の山　沙鴎

○良那山行しく月をとうしくハ何事し
ふとうしくふ恐ろわり白を限きもとハ又月とて
追うしてようへハあまえ之こ美しふ何も移むし
人の月のあや風しまつてくまふ秋ころてる
月いよゝ澄むもりぬ
山彦を月のあさハあらくさるさ　大巣
雛月やうゝハやうても月の秋　月巣
○誰不送春秋　一年三百日
煙霞薬此身　恐治愚癡疾
月の雪を猿まね枯あるゝ説法師
かゝるまいつきへつゝしきわもそいもハ大方人よ

[illegible]

又人[illegible]山[illegible]月[illegible]

[illegible]や松の下[illegible]

[illegible]

山里の月[illegible]をはまへ庭の松　士朗

月は松の葉かくれて[illegible]

の葉くれ[illegible]

松ふく風のもとの[illegible]　梁臺

[illegible]　儲史

面の外月やあらんとおもふ　関叟

○[illegible]小蘇るかくれ[illegible]　夷栢

○[illegible]荊棘をひらいて十畝三椽茅ぶき

とす池は湖を山のふもと蘿蔦池のほとり

ありけり

茅屋茅屋を目の先にてふの月　葛井

○　十六夜

星漢を持は[illegible]　孔阜

名月のかゝる世界はありけり　良平

蘇[illegible]作をうつやうねの月　素月

年々や松[illegible]月　保舟

湖を一夜[illegible]の月　木常

○[illegible]

美濃　おうな女
可玄
三河　亞頑
梅香津
三河　春鳥
近江　砂文
国水
青鼎
京芳
摂津　如水

○

陸奥　涛雲

月の出ぬ山ぬ月をかすめる松の風　近江　竜山
月ハ西ニ月ハ東ニ鳴るの秋　琅屋
里人ハたく帰むなりふ秋の月　三河　梦雀
秋の風ふきはらふ雲の月　五道
つれなけれ雲ハ月をかくすなり　可竹
名月の不義ハ梯束ねり中　三河　千阿
ひとの名ハ入ル嘴の月　近江　文山
名月や中ハ鳥ハ鳥の浦くき　摂津　左一
蛩ともいつるれ月ハ林の月　大津　宇洋
いさ知ら月ハ石船貞の船の月　三河　楳堂
月ハ出る日を映ル接の葉まくら　摂津　于當

○

仲秋

雲雨〜霧〜月のけ〜き小田　實

雲ハ〜分雲の袋よ秋の月　大坂　米彦

月よろこ小得よあらをよ仲の雲　得芝

いつの秋もうるき船の秋の月　イヨ　樗堂

やう〜月ら出るしくや萩の　近江　古猿

月の出やいさり車も松の影　二泉

松尾よ月ゆけ〜山のうへ　三河　百秋

鳴一雲〜茅や三ツ四ツ唐の月　三河　介亭

名むすふ多ふめて名もなの　子厚

唐黍のまいてうよ〜嵯の月　杜月

名月やはうつりの唐の家　近江　玉翠

名月や月ハ〜ものよ〜まら〜　大商

○成範つよいの癖ハ家ハ家の

癖わり家ハ家ハ家ハ和尚の癖ハ

萩ハ癖やまとよ名ハ月の癖　永叔

月ハ〜て桜よ春さへいそ〜ま　也春堂

枇杷園すて

名月やたつ〜ぬ松の音　棋間

名月よ雲のりるわ〜也ハ　大蘇

松の月の葉ま月ハ松の上　秋国

月氣を屋花よつ〜む小家ハ　几咲

○ 赤松園

出る月や入るうつて松の影　竹趣

山里ハ罪をきはめの八やうかな　蕉雨

何とゐう夜の西うつき素月哉　津技風

○ 早秋

名ばかりの月のこるの叢　東有

名月や秋をつくす草のうち　潛竜

初松ようつくし嬢し初手東　月底

松うけやつきあひの雲やうつ　野秀

○ 高寺の滝高を過て日入るうて

名もおろぬ山ゆもうつて松の月　友鳳

○第の庵と雲ハいやしき名なれども

世をこのもしきまし住居なり寄りて住ゐる弘

家もおのもおのもくくして

第の戸や家を過たる月子生　而后

月の夜の隣ハ行ものやて雲西を　艸人

あるるなる文まく月のちうく小　清成美

○琵琶樽ちよ三人の乞食ばり一樽の酒よ

第ていひなるハ家のこと後遠あるる

ものいひなるハ月のうつ雪のうつ之歩りとの

いひなるハ月のうつ雪ハ十五夜

ゆり月と見あるる汝り服力ちを行つ月とあれ

そその酒をさしむけるを八さすうゐ酒も
ちさとし嬉しくなりまさるしけるる
名りやうきひらもえぬ佛堂　栗大

○　碧亭小集

○雲筆の雲のようなりなるの月　桂五

○ある浮田金は位る男大釜をとりもて
見をふさつなきを掘ふ見ええる雷るるあれ
ゐの釜の中は入る事麻はなるまあるる釜盗人
入事り事大釜を盗してかきもてりは
男ハうまく麻入るるる蕎も見をとるるる
りかとるは釜あまりは事りなるまハ盗人た

拾あるみて世界は拾てなりやるとてうめ男
月さめ盗れし揚てうんしるるおるる乃
取八時十四取ゐるるるるるるまなき月まるは
沈やるるて萩もすきも雷西やるるるるる
すこうりなるハ男ゐきゐまとひてこハいるは
あまりは釜をとをしてまをハるるるるる
しくこうるるる拾
やるるるる月は拾いふひるるる　卓老
毎家山を本のるるまるるるは一歌　鳴立沢　蔦三
丁も事るくきくんるるや山の月　大坂　三津人
出る月の去まくこるるすきる　長崎　祥禾

十六夜の淋松を出て歩まるゝ

はつゝの事ゝ日ゝすゝりなり月八西　大坂　尺芥

とゝくまよゝ夜の月八同ゝ月　信　素鑵

ゝゝの月さてもをゝまぬ夜ゝ哉　、雲帯

月八つゝさすゝ岸のゝゝたゝり　江戸　之亮

百年も法てゝれゝゝゝゝの月　奥乙二

月ひゝゝ松て夜ゝゝの極ひゝ　大阜

名月のせゝゝゝ事ゝよゝのゝゝ　竜渕

海山も同ゝんゝゝゝの　星川

松ゝゝへ八夜の苦ゝゝる月夜ゝ　湖凡

○月八松ゝ竹八松ゝゝの嵐をゝゝひゝゝ　少汝

一つゝの一ゝを爲ゝの遅へるゝゝ服なゝき

もゝゝゝ風ゝゝゝりゝ畠ゝの〳〵ゝゝゝも

ゝゝゝいゝゝゝの夜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

面より小屋を眠ゝゝもをゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ言ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

屋の月雲八葉山ゝゝを忘ゝ　楳葉

題

玉兎接合しをるを昆仲遥士

の梢よりせらせをる月もふくと汁の

霞よりさひをる月をもことのかよ笑えを毋色

桃源

をを月のまつよ桐の立枝所

琴洲

菊芳ををを繩の月所

左琴

ようをみをしかるをを月

文角

寃竟の月東をりをめの花

万和

長寄

菊也

をを明やをやををを八因よりをを

柘尾

岳

今をよ月東ををりを

李臺

月の偏るやうよ屋根ふけ部を

概七彩五十九

門をさをよ出をを八月の柘殖所

洛茂良

松けやひ東柘殖の月う

蒼虬

すををさの月をちる蛍よ似彩

春思

彩くをを月よ向ひぬ蛍の月

世竹

風蒸るかハ小松の月東所

星栄

ひやくをと月もさををを芭の氣

丹武陵

七種八月も去けをを月東所

曰入

やををををぬうちよう月の和穂所

長政

蛍の東の月やが所ともに峰の

巣兆

三日月も多を八柘ををう

椎渕

雪ををよ伊賀八ふををを月

李東

日ぐれや梅のはつかに見る春の　山　河内　未紀

日の和をかすめて白く咲梅ぶ　大坂　井眉

瘦藤は黒ハとらに垂て清水鶯　京　紙李

風の来るこゑ聞く書の月　二月　喜年

三日月の梅の花より弱めや　羅桐　栖

ちらつのうちよりとりしこゑ鉄の実こ

事務りぬ

對蹲亭梅巻

於蹲亭梅巻集序

及古亭硯新不霜り

人くとゝ雪よ照るもして

雲間の海よたゝ出り

松ふるく帰よ生無ひて

うちなびける　波のうへ
舟の綱ひくこゑ
のしとなりぬる　夕霧

おもひ出ぶし

二月十六日

雲たなびく沼の小暗の夜明け
中しらぬきし梅の香気ありけり
有明の月を寒の夜ふけて
猿の心をやしなひけり
盆ハ滝のたうもとふるん
雪あはれ吹小家よ木を割
約束の鶏鳴も程ちかし
夕暮をしとよ屑とそ来る

入阜
硯静
周瑞
大巣
野橋
園暁
茂竜
楚江

たつつき松すり時雨初よくり　白慈
あそりしも七夕小豆粥たく　大阜
玉の弦を張りをかへ織の宿　硯静
姫ぐ〳〵三笠の月の清々き　周瑞
おつるかりし枯の宋つく蘭の香　大巣
芋の白雲して中稲刈ら菊　定橋
一束薄て風ひく小菊の蕚莖　圃暁
相人ほけ小高那留をふく　茂竜
ちく〳〵雲の中より兼の蕚初雪　麦江
七日逝ひ〳〵落うすむ　白慈
おもしろき魚の名を刻書の波　大阜

七月五日下廿二

そもくは多き世之春　旅　硯静
落くも穂彩しき秋の花　周瑞
智の芥のやるうさもるき　大巣
杜鵑鳴くを月のはつ〳〵も　定橋
思の松家栖中に新さして　茂竜
咲樹〳〵雲るかし吹　義　圃暁
ぬけてれうき居風呂の底　麦江
拙こ切〳〵象を海〳〵の中直り　白慈
隈りも寄き十夜の月　大阜
沖雲寄りと流る秋の新雲　硯静
女さう〳〵鶯　釜を　芋　周瑞
かりそめよ結ひもあぬ水引　大巣

角賀の宇をたのむ　朝日　竹橋
夕の雨くまけハ煙とる古渡　楚江
雲を吟るうくひすの声　白蘋
巷の書めくくまき花の笠　圃曉
筆よけるくの紙なる　臘　秋　硯静

三月六日二九亭ふるす

かゝるくくと茶八幡けふとりハ宇橋　玉山
畠うもつみ田くく山くのうね　二九
ゑのあのほくけるゑの餅のまて　士綱
たきゝ火の煙を折ふ岩蓋　雲羅
かりうねの横よ敷さに雪の月　吐暁
人ゝくゑの萩ぬまむらん　白綾
義しう秋を約束くくゝ　浦雀
ちりくくちりくく蓋つく　萬巷

[illegible]も角もなくて袴の着れき
[illegible]ハ峰ぬ　初雪　大阜
[illegible]　二九
[illegible]　士綱
[illegible]　雲霞
[illegible]　吐暁
[illegible]　多渡
[illegible]　浦雀
[illegible]　萬花
[illegible]　大阜
[illegible]　如山

[illegible]　二九
[illegible]　士綱
[illegible]　雲霞
[illegible]　吐暁
[illegible]　多渡
[illegible]　浦雀
[illegible]　萬花
[illegible]　大阜
[illegible]　如山

[illegible]の大文字　二九　士綱
[illegible]　雲霞
[illegible]　吐暁
[illegible]　多渡
[illegible]　浦雀
[illegible]　萬巻
[illegible]　大阜
[illegible]　如山
[illegible]　二九
[illegible]　士綱

癈寺の四日酒をつくしそ　雲霧
仏殿よりそなハ手をなぜの井　吐暁
こゝろをハてハ人を棚へ掛くゝ迄　名緒
とゝゝやへ雪のなきハ陽安　浦雀
見しをけゝり日の照る山ハ色ゝ書　茅花
若ゝまゝゝゝ雪の雪　大阜

三月廿日　桜満開

やまゆりて　士朗
桜物市ひゝゝ雪は降蛙　大阜
ゆゝ杉もゝゝき里のむゝゝ雨　岳洛
夜交雲ハ一位つく雪ゝ歌ゝ　秋峯
まゝしてもゝを千ゝ百ゝ居る　硯静
勝のきゝゝき好くゝを垣の分　士朗
鳥の巣をもゝ雨ハ杉風　大阜
花をつゝ巣の塩を炭ひ色　岳洛
色ゝ色ゝ巣をのゝ色ゝ　秋峯
さゝひゝゝと奥座もなき　鶯

塵打ち流れ明の暁　川　硯静

夏人の新り盥をふるふり　士朗

ちくきのやうよ硬てくやしき　大阜

蟋蟀の巣及月よなかやん　岳洛

沸つるものそやき蜀黍　秋擧

老用のこと巣のはを閑答　硯静

ふ稼をつなたハ波よ世くらし　士朗

花色ハよ世をさたうふ巣う　大阜

根ものきみしたる蠶蹈夏も　岳洛

かくくて田螺の売を撥義　秋蓼

賤々小家の夏く算よ西く　硯静

志ほ世そて袖よりくれ白芙蓉　士朗

もの新きり梓の木の　月　大阜

明の以歩弦美　岳洛

鶏ちていの事も　秋蓼

絵屏ハちくそうよ蜀黍　硯静

字治ハそ胡くく橋和をうつ　士朗

雪の雲くれのの雲よりの　大阜

ちくよ世ちてくめ帰らん　岳洛

程ちちて鶏根の和なき　秋蓼

ちくくほうる胡　鮮の太　硯静

白波よ世ハ明くの月そて　士朗

この紙軒先酒屋ゆりの
初花よ匂ひけしなる 紅雛　五雄
多よのもとて来る 菫 ひとと　岳洛
鬼灯ら水くむうへよ 鳴ひとり　秋峯
はきぬやまとのそらの 桃　五雄
　　挽葉

遊か
天明八戊申三月 紀の子業八
暮るのまさ名よかくまは
ちとうふとの名しては夜の浦よ
てとて来つ由可梨の人くよ
助らもかもよ唐もとひして　曉臺

桃や赤茅沖の陽も茅よ別よ
の毛つ毛つけつ苔の角 組　太阜

山の雪ゆふべの雨まぶ霜〳〵　社尹
後雁うまよ歩るひまく　民情
やまく海るひつきよ渡き社の月　帶梅
離うくまこ　菊の秋きうか　聽吳

春

元日や四つよ墨〳〵紙屋哉　蒼虬
元日や月よりうぶき梅の花　如汝
花ぬ望ハ蹄てハみも出雲や　汁
桂五
雪とよりそよ男ハ出ても花の去　附央
第一番の小鯛俗ぶ茶りぶり　葛井
森迄まハよ若菜賣黒男　楊良
雪ひ花ひまくきもけ初なり　洲道
雪のなく嚴拾〳〵小寺うぶ　花狂
ゝひ〳〵ゝまハ茶よぶり伊勢糸　風洲
ゝひ〳〵ゝよ手こ拾ゝ　汁　雁汀

蕎の葉や崔を[illegible]貝のに　國お
[illegible]の日もやうく山間のかすむ　子當
山家より里へ[illegible]信も[illegible]の風　孔昇
[illegible]風や美しうきく秋の偶偶師　雲谷
韋法[illegible]を嵐のこゝろ[illegible]の[illegible]　竹堂
菓の花の[illegible]て破[illegible]て[illegible]笠　推巳
湖へうち[illegible]雑[illegible]の[illegible]ぶ　大商

書狀吟

和[illegible]菓の[illegible]ぶ　吐山
法[illegible]木の[illegible]の[illegible]　賀風

めうまたる人の浮へ[illegible]て

枇七紀五下廿九

る人々花の[illegible]を山橋　鹿狐
花[illegible]利根[illegible]　也梁
人のうへも老木の[illegible]ぶ　大蕪
因螺[illegible]蛙[illegible]　卓池
[illegible]　雄渕
今[illegible]　梁臺
[illegible]雑[illegible]男の[illegible]　五道

餞別

[illegible]や[illegible]の[illegible]　兆雲
菓[illegible]義や[illegible]　[illegible]協
[illegible]や[illegible]腹[illegible]　桔堂

からにまろこ第七番目蛙うか　乃彦

夏

蛙さはときけハはたそつ〜ゑ衣　蕉雨

ちろもの元多賀の雪庵よりこれ　伝呂

ほ〜〜ゑ不二ハちきしこ花やな　魯堂

ゆの花や水ようつまる狗ゝ岳　伯を

うの花の垣よ鳥出て寺子ハ　一覚

来多川や茶多へ落て雲嵐　専伯

後行吟　三句

富士よ出たゝ垂井の一番雪　元美

しこゝ春や鳥もなりぬ信濃路　太嶺

鶯春や何事もなく暮よかし　亀年

浪花出て元禄に菓子ゝ

蕪多花こゝも彩の寺ゝ　弦六

ゆ〜ゑや稲荷ゝ参ようる　秋秀

さ〜〜しさや納ゝ〜〜ゝ和ゝの海　砂牛

角力とりと屑ゝ番兵へ〜〜ゝ　田江

むゝ多ハゝ〜〜の春ゝ多の月　長政

萍の花や鶯多ゝ鶯ゝ　竹有

秋

ちゝよく秋ハ来よゝり茶の〜〜　菓屋

文月を桔梗の高ゝ出ゝ〜〜ゝ　九岳

蟋蟀をやきこむ月のむこうぶ　可升

夏草の晃象

嘶をひく草をよせるひとぶ　一茶

かしまくも唐の国と唐中蟋蟀　仲趣

膝琴や蓋も笠もらぬ唐の宮　秋函

清仲内のけしきをわかもひ

わかをこうす

曳舟の船をひくと出る芒哉　梅宮

賜の唱歌杉原の西日　五雄

鶴をさへもつうかなりかの鶴　方明

いちまの山中よりこう

赤菓の中ふきこう原きく鶏うか　魯隠

閑居博哀

つひにこそ寂つくても草の花　来山

すゆるよ蓋のくの宮をも清る紅葉　蛙閑

多六口占　華

鼎さへ蓋をの左沈ふ沈ふ華　桐栖

赤くくくも笠をふをこう竜の子　砂文

山雪の尾をひく雪の茶のこうぶ　可青

うゆくくと雪よーを見るふ仲ぶ　羅山

降うを三雪ふ雪を見ふ仲ぶ雪の雪花　李堂

風をを送る唐をてうくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芙山

文化六巳巳年

晩夏

秋七 欠五下三十二

柴笠戸集序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]の花雛波の芦の中霧よ

[illegible]とあて雪積る年の暮まて

風雅のこうちゃうこさ[illegible]ふ[illegible]と

[illegible]とと[illegible]こと[illegible]き[illegible]の

清き[illegible]る杜を[illegible]ら岳輪

馬街園杜彩發句

杜

杉霞[illegible]

杉風の止[illegible]

同[illegible]

杜風の[illegible]

中[illegible]

[illegible]

雛[illegible]

雛[illegible]

文科の雲も見えたり林のこず
林の梢をうつしてくれの月
ひとつ戸や籍の山明暗の音
鹿鳴くこゑの落くく慧うか
冬
日市日蔭はたちたる本多ふ
木くくの中ゆ出ぬり竜田川
木くくのもみぢは流るる筏ふ
月明の下は四方本冬本こ
うきくくとよみ小林の芒ふ
枯う根は枯ぬきもるをもふ

大雪を合点の時戸にうか
沖くくき嶺のうゑ知てめ
百御園
猿人の家も雪くくる岩
大雪よりかくれ雪の中
夏
青月は二夜高き時雨
垣ひゆ毋は乃うし雲本
高山は雲くくに巴なり高良の所
行の高や人は吼つく星の女
夏の秋八雲くくに白き東うか

途中

為仲の面八止り嶋の葉
寂しかるとも見へよゝんも香
幸湊の雲より古し田植歌
山里八雲よりもなく懸ゝ方

神護山

郭公の中まも旬八殺日ぶ
仲秋名月しゝ提灯小笹ぶ
あつまし日和笹毛蟲さしなる牛

蕎

蕎八ゝ分蕎麦ゝ
ゝ

初蕎麦面の降ぬくみ紀川き
雲はゝらぬるゝ雨ゝ雲の雪
雪の蕎麦抜うゝ蕎八咲はゝり
雨ゝゝ雨ゝ蕎麦の唱小蕎ぶ

鈴鹿山

蕎の蕎ゝ移月川の蕎ゝ
蕎の日の蕎麦とゝけゝ入蕎ぶ
見るゝ面ひよ蕎ゝく思ふ柳ゝ分
孔橋雨雲よつゝ蕎ゝ咲ゝぬゝ

椿中

大津雨て服よつき初ゝ乙蕎ぶ

蕎麦の中あを蔦の紅葉うつる　松雀

嵐山

くくやあふすれ雨松の枝

ひつぱらくく菴の戸ぬすむ蛙

ちる花をつゝもつゝまぬ袋の芋　石卿

宮井

幸湯や郭公ふる野雪の茶

四季混雜

うつくくうつくく菴の火桶うつる　雪篇

茶茶やそらすみて暮半の瓦

風鈴のとくくやすむ暮の蔦　水

蕎麦の中あを蔦の紅葉　松

雪の日のはるくくやすむ　塩叟

はくくゝ花をつゝぬ日ハかき山ゝ　農分

寒蝉やひくくりそくたる松　竹奥

花見すゝやゝ崔のかゝらすして　其仙

神風の伊勢ま出て萩の葉　寸明

苅はくくの茶くくやすむ　探香

蕎麦をそやつ田の麦の寸　宗古

ゝ　りぬ松くく松の月　文伝

ひくくりの中ゝ松くくも松の雪　湖秋

荷ひきの淋蔦て出る一里塚　巴陵

十精

見くらべやいとくさまよる杉の風　杜影老母

ゆふ面ことの空うつろふ時　東女

三日月やつるとうちなる梅の花　兎十

蕭てまくと柳ハ霜ねよ柳よりり　菊弥

ゆふ鳥の柳くらて星の意　集蛾

系居

柳美戸や寒朝白のみきれつる　呂兆

ゆふ月よ柳枝をひくり戻くり　巣居

夏月やへくくとれ寒　蘇石　朴臺

扇とハ別るく時の名なるへ　桂五

為唐山ハ風乃袋を常　蛙　茂東

十六歌の貴富のてて月為　友風

月又とて猿水をるさへそうき　椿堂

初唐中寒よめれたる伊吹山　省我

白雲を踏さけてりぬるきく　孔阜

ちくをを忍よわくく柱毋　九岳

湖の水よ寒ひうをきぬく　田江

秋風や撫でまはりける寺の門　午風
屋の重なる山をうつしをる　求巳
山里の事なべるなり　梅洲
東福寺にて
色こそよ松の緑稽あるべしなり　千阿
秋風やちさくうつる山の奥　大蘇
かりがねも竜の面書屏や　竹趣
水くくや宝くく掃いやすの新　元義
ひきしめや西よりたる虫の長　淇石
茶くもり日は一よりも山のうへ　虎更
萩の寺佛はのしく寺ぬし　硯静

掃掃くく茅の新そよぐなり　如つ
秋くる月のくもの多り茅の　梁塵
多情水の月くく宗　暁浦
時雨ても秋はすや萩の多　阜池
良秋
面の月おもてそれは人も蓮は　仲弓
おのの茅を人は寄しすや寄時雨　葛井
雲なれしくもの雲も多い日や　野秀
田よ花の枯てかりいなり　蛙
多い稲は秋のかんは寄る　垠屋
湖の面ちらつそも蛙のくく分　黄山
野秀

廉明や雁をうつや峰の月　素月
心月のいろつまれる梅の花　芳水
かくつゝハ汐うさぶく時雨　楼雀
菜の花の潮ひにたゝる小舟　湖風
雄掃の塔し留ふく木の葉　卓老
多くの蕉の枝のふるも枯の蕾　帯梅
蕉雨の日のはるゝ雨ふる梅　五蕉
菅のあさぎ小ゆ苔の霧　沙時
山里ハうるゝ蛙し沮梁　大阜
大くさハ月をも見ぬ蕉の花
つとめハ人の老とゝるの

ゆくゝるの春風ふる月
雁の子ゝ沙ゝるひもゝる梅の花　六雀
元旦ゝ蕉ハさめぬ小春　永秋
学をゝ雪る杉や書の香のゝ名　好堂
服ゝつくハ多玉の打花ゝ　吐山
七宇八宇蕉蕉玉蕉流の門　金谷
ゝ手ゝ雪ゝふゝの手も苦の風　駕風
白牡丹二日かハ咲ゝ　昨東
蕉なくる墨や陽ゝる酒丁　杉蕉
梅ゝゝゝ今ゝ時ゝ雲雀ゝ　阿城
雀ゝ家ハ玉根ゝゝゝ天ゝ河　蕉川
五雄

月よ色さ和しやよむ時の面　李來
ゆきまる水やすくんの花　周瑞
舟うゝも脂をうをとり萩の花　林拳
笠をとむ京名ゆんこ拾屋敷　梅間
蝶飛や翅く晴る籠の面　鹿野
庵の戸八切ゆるて書の面　雀鳴
星ても晴くも枯よ月の雪　橋良
新涼き松よ降やり枝の面　青川
秋りくて時雨の茶屋ぬ　方明
家ゆうつ建も初ゆう丘の松　栗大
今ゆうやうよ明やり秋の下　圃曉

老の身のまつ高つきぬ雪の宿　桃林
西月前よ踊くをる雪の親ゆ　其白
立むうゝ松ゆの山をて秋の雪　李臺
旅人の足をしかゆ一夕雪雀　丘高
麦畑やとゝ戸ゆる雪の面　左涯
ゆうゝしの咲ゆ松ゆう南四川　雀人
橋掛をまきゆむ月の山ゆ　丙竹
名雪や分うゆきゆ月の家　奥毛
黄色も淋や雪屋の年の雪　推巳

雪ゆ長まゆ
胡麻の髭ゆつゆる横ゆ分　岱呂

雪の色の數は日の入る所に　雪封

三日月は八月の年なり　月庭

伊勢そだちの人の家を　對我

月芒多羽の鳴るを聞くと　拙素

咲花は春の雨なりの夢の　魯虹

洞の森は八元食の森　琪六

月さえて淋しく拾ひ花　昆明

夢蝶よせられて眠られぬ

咲そめる梅は淋しかるべし

かくしたなら学んでも

英遠ふ流るも死なるこの朝の秋　士朗

杉の葉を先とする星の四極多　大商

途中

書面は長安山にたちたり　呂兆

書面の子供の頃の杉の下　岳洛

胡蝶の花は咲くも月夜かな　杜影

秋の雁の雲を出るこの夜　呂兆

鐘の音時を知る舟の音　士朗

人のきらんのうつる山　時　五雄

彩つめハるらりくとうまくこ　岳洛

色々色にてもみ志ふる　秋拳

大寺の葱の肥るころかな　兆

かくもとけぬ無衣よ注炭　朗

塩多よ唐松さくくうまり　雄

灯影のゆらく炭のつるく　洛

糟屋の一重ゝ蓋を勝まを　拳

を江の人と　晩　兆

大悪ハ盗よ盗ゝ　朗

桔梗の中くゝ　雄

把くゝぬ振の振女の袁さま　洛

言蘭の縣の　和　四を哭　朗

行ゝの月のまつ　ハれ　兆

ゆるてのうゝ蓋よりり　拳

朔蓋よ後を行ゝ負ねもの　椿堂

行法て点沢わくゝ　悪　洛

人くハ杉の赤のるよ服を法を　拳

あくゝ柏の脂りそくけり　兆

桔机の古さ　白　平　年　雄

四月八日　福寿　を　く　堂

弁の袁を蜜の袁くと眺り　洛

素堂のあく茂掛けしより
姥宮の社の傍ハふるよて
篝屋のぬるさ中へ日の影
夕月を高宮林よ高くより
雨よりの華とちりハ
橋後よ鬢蝉の先たちて
滝の畠をのろる 関雄
十日ゑびと萩明の色うつく 朗
ふつりてをきさうぬ萩の茅 堂
茶さり衛士ろ難天の原の秋 兆
春るゑひこゑよ能あをむ 格
柔

枇七敬五下四十三

柴戸跋

杜鵑ろ選稿を柴の戸と
いふ紅塵市上の住居
かりそめ芦萩の宋寂よ垂
を吉ねるる亡人のうるる

へ〻芭蕉翁十哀人呂怨な
はり是ニ事をさそふ
事なるをりて友人の俤
杉うゑまゝ寸老子の事語る

士朗

枇七敍五下四

士朗門人の名極花園
つゝしみ知れり〻刊刻
ごとくにて楽しとてこれを
門人のかゝとまこれ
京都みたる
樣子のもの

歩たえてのあるし乃
にいさゝかふくしおも
樗木ゟ午未樣のゆゑと
さいはひとくわ帰られきを
中おきふしもくらし
たちわれ無為にしなりぬるの

ひとゝきをみせなくて
閑しきたゝ人か頭ぬ
きうしくしら蛇足ともなり
申る頼しなりゆるしまを

乙酉秋
東園ニ隠雅

文政八年乙酉秋發行

梅花園藏板

大日本國郡全圖　彩色摺箱入　全二冊

此六十余州の全図八小経国の大業に志めるゝ人をして地の理を知りしめ或は歴代の容廻国順拝の人々勝槩古跡を探り神社佛閣をえらび線路の必用の書のみならず諸国の城下郡縣村落山河小なるまで盡く彩色をもて一覽するに易からしむ実に東路菊分積年の工夫を以て如斯大成ありしは古今地図の書の冠るものなり

尾陽名古屋本町七丁目　永樂屋東四郎
東都京橋南傳馬町二丁目　同　出店